

私は、5人兄弟の4番目。私は、親父の顔を知らない。私が3歳、親父は仕事の上での怪我で亡くなった。

兄の古い文章を見つけたことがある。内容は、「母親は寝ない」ものだと思っていたのことが書いてあった。振り返ってみると確かに、私も、母親の寝顔を見たことがなかった。

朝、目が覚めると食卓には子供たちの朝ごはんが並べられていた。朝ごはんはと夕ご飯は、家族全員で、そろって食べた。それは約束でもなく、習慣であった。

子供たちが先に寝る。確かに、母親と一緒に床に入ることはなかった。それにしても、体調が悪くて寝込むことは無かったであろうか。女手一つで、5人の子供を育てるためには、病気になる暇もなかったのであろうか。何気ない、当たり前の風景、当たり前の思い出である。

最近、よく見かける風景がある。単身赴任のことでもあり、行きつけの「居酒屋」で夕食を済ませることがしばしばある。そこに、不思議な光景がある。小さな、子供づれでの食事の場面がしばしばある。そこは、居酒屋。時間帯が気になる。タバコの煙も漂う。ふと、不安になる。大丈夫かな。子供たちの教育は、将来は・・・と。

スマホを見ながら横断歩道をゆっくり歩く中学生、高校生。車の渋滞を気にしない。遅くまで、塾に通う子供たち。当然の事、夕食は別枠であろう。教育ママの姿はよく目にする今日このごろ。大丈夫かな。

教育の基本、足元は家庭の食卓にあるのでは。